

国語 第5学年 知りたいことを聞き出そう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある4月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「次の質問は答えのどの部分から生まれるか」を問い、聞きたい目的を明確にして話を聞き、答えに合う質問で情報を確かめる。聞き取りと追問の記録の初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕A 話すこと・聞くこと(1)エ	エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。
〔第5学年及び第6学年〕A 話すこと・聞くこと(2)イ	イ インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、相手との関係を作る言葉の働きに気付き、問いや応答が相手にどう伝わるかを確かめている。思考・判断・表現では、聞きたい目的を明確にして話を聞き、答えに合う質問で情報を確かめる。交流や試行の前後を比べ、聞き取りと追問の記録を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①相手との関係を作る言葉の働きに気付き、問いや応答が相手にどう伝わるかを確かめている。〔知識及び技能〕(1)ア)	①「話すこと・聞くこと」において、聞きたい目的を明確にして話を聞き、答えに合う質問で情報を確かめている。(A(1)エ・A(2)イ)	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○話し手の意図を捉えた質問に関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す聞き取りと追問の記録の内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2～3 （本時は3時）	○聞きたい目的を明確にして話を聞き、答えに合う質問で情報を確かめる。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○次の質問は答えのどの部分から生まれるかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	4	○聞き取りと追問の記録を仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



本時の案

本時の目標：聞きたい目的を明確にして話を聞き、答えに合う質問で情報を確認することができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時までの記録を確認、今日使う教材や資料を準備する。 ○「次の質問は答えのどの部分から生まれるか」 【めあて】話し手の意図を捉えた質問について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・ 答えの理由を聞くと考え方が理解できた。 ・ どこを確認すれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。質問表の順を守ることだけに集中する姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 聞きたい目的を明確にして話を聞き、答えに合う質問で情報を確認する。 3 話し手と聞き手を交代し、相手が伝えた内容を確認して質問や応答を返す。 4 「次の質問は答えのどの部分から生まれるか」を観点に、伝わった内容と伝わりにくかった点を確認、もう一度話したり聞いたりする。 〈予想される児童の反応〉 ・ 答えの理由を聞くと考え方が理解できた。 ・ 友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	既に理解できたことを記し、不明点から追問を選ぶ。知識・技能では、相手との関係を作る言葉の働きに気付き、問いや応答が相手にどう伝わるかを確認している。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確認する。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①聞きたい目的を明確にして話を聞き、答えに合う質問で情報を確認している。(A(1)エ・A(2)イ) (発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録)
まとめ (分)	5 聞き取りと追問の記録を確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】聞く目的を決め、理解できたことと確かめたことを区別すると、必要な質問を考えられる。 6 最初から変えた点、理由を確認して残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・ 自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。次の質問は答えのどの部分から生まれるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（聞き取りと追問の記録と実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には話し手の意図を捉えた質問を確認する語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に聞き取りと追問の記録で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまづきやすい所と手当て

予想する難しさは、質問表の順を守ることに集中することである。既に理解できたことを記し、不明点から追問を選ぶ。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

聞き取りと追問の記録

「次の質問は答えのどの部分から生まれるか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。既に理解できたことを記し、不明点から追問を選ぶための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_5_202401.docx）／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>）／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf）／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重